

埼玉 GPN NEWS

Saitama Green Purchasing Network
埼玉グリーン購入ネットワークニュース
第12号 2014年3月

～環境への負荷が少ない商品・サービスの優先購入を進める
首都圏初の地域ネットワーク～

埼玉GPN NEWS 2014.3



小川 秀樹代表取締役社長

CONTENTS

- トップインタビュー 株式会社埼玉新聞社
代表取締役社長 小川 秀樹氏…………… 1
- 東京ガス千住Ei-WALKを見学…………… 2
- グリーン購入大賞を学ぶ
企業見学会を開催…………… 3
- 会員紹介 大宮アルディージャ…………… 4

環境負荷ゼロを目指し、後世に宿題は残さない企業でありたい!

今回は、埼玉GPN企業見学会の一環で株式会社埼玉新聞社を訪問し、小川秀樹代表取締役社長から環境への取組等をお聞きしました。



環境への取組みについて小川社長に聞く

江田会長：御社は浦和区から移転されましたが、何か変わったところがありますか？

小川社長：弊社が北区吉野町へ移動してきて、今年の4月で丸6年になります。国道16号線が近いので、川越市と春日部市が非常に近くなりました。もともと車を使うことが多く、県南の交通渋滞を避けられますので便利だと思います。また、浦和区にいた頃より良いと感じるのが自然環境です。窓の外を眺めると濃い緑があります。近接地には雑木林が残っていて、創造的な空気を生む地域環境となっています。新聞製作上でも変わったところがあります。輪転機に貼りつける刷版というのがありますが、光学的に写真と同じ要領で焼き付けていたのをフルデジタル化したので、ネガフィルムを作る工程が無くなりました。浦和にいた時

は、現像液や定着液といった化学薬品の処理が大変だったのですが、コストや手間が圧縮されました。**江田会長：**企業として、環境問題に対してどうお考えですか？

小川社長：新聞社の場合、一番地球環境にダメージがあるのは紙とインクだと思います。今、新聞の紙は再生紙が主で、リサイクルのシステムがかなり確立しているので、ほぼ100%リサイクルされています。ただし、使っていくうちに紙が徐々に黒くなり繊維が弱くなってしまいますので、そこにバージンパルプを入れて古紙比率が60～70%の再生紙を主流として使っています。インクに関しては、私が入社してすぐ、有機化学系のインクは使えなくなり、植物由来のインクを使うようになっています。原料上は、舐めても大丈夫なものになっています。昔のインクは手についたら非常に落ちにくいものでしたが、今は洗えば落ちるものとなっています。浦和からこちらに移る時に、建物を壊して土壌をひっくり返して汚染状況を確認したのですが、すぐに建築が出来るような土壌ではありませんでした。というのも、当時の活字印刷における鉛と有機系のインクが地面に染み込んでしまっていて、その処理費用は予想外でした。戦後すぐは環境への意識というのは全く無かったと思いますので、インクも鉛も危険という感覚では無かったのだと思います。過ぎてみれば、われわれ後輩に重い宿題を残すことになりました。現在はデジタル印刷が進み汚水が流れ出ることはありません。さらに環境負荷ゼロを目指して、後世に宿題を残さない企業でありたいと思っています。

江田会長：有機系のインクや鉛が無くなり、廃棄物は減ったわけですね。

小川社長：今現在、廃棄が一番多いのはやはり紙です。印刷の過程での刷り損じや試し刷り等で損紙というものが出てしまいます。それをなるべく減らそうというのが輪転機職場で努力しているところです。また、大量のコピーや新聞を読んでいますので、そ

れも毎日廃棄物となります。ただ、幸いにもお隣に紙の再生をして頂ける企業があり、紙を買い取って頂ける環境にあります。そういった意味でも廃棄物として社外に出るものは少なく、上手く回っていると感じています。悩みは電力の問題です。照明やパソコン等の小まめなオンオフや、裏紙のメモや連絡紙などへの再利用は徹底しているのですが、新聞発行の生命線である輪転機の電力だけはどうしても節約が出来ませんので、いかに効率良く運転するかを考えています。現在の輪転機は20年以上使っていますが、浦和から移転する際に部品を分解して持ってきたことが良いオーバーホールの役割を果たしたと思います。それにアナログ操作なので、不都合があれば現場で対応できるというのも良さです。長年使い込んでいるので、非常に愛されている機械です。

江田会長：省エネに関して、社員皆様の意識も高いわけですね。

小川社長：報道の仕事とは別に、地球環境を守ることや地域の緑を作る活動も行っています。また、ご協賛頂きました企業様の環境への取り組みを、紙面を通じて発信しています。うまく循環している事業としては、県内の都市公園に子ども達を連れて行ってどんぐりを拾わせています。拾ったどんぐりを県内の農業高校に持っていき、そこで苗に育ててもらいます。その苗を「埼玉新聞エコ最良の森」と呼んでいる久喜市内にある河川敷に植えて森づくりを始めています。社員だけではなく協賛いただいた企業の方々とも楽しみながら活動をしています。

江田会長：環境負荷ゼロを目指す努力と、社外で周りを巻き込んだ活発な環境活動に大変感心しました。埼玉新聞の森が益々広がりを見せることに期待しています。

東京ガス千住Ei-WALKを見学

当団体はJR南千住駅から約15分に位置する東京ガス株式会社の最先端エネルギー技術の実証試験見学サイト「千住Ei-WALK(イー・ウォーク)」を、11月18日に総勢14名で見学しました。見学予約が殺到している人気の施設のため予約が取りにくいのですが、今回は東京ガス埼玉支社様のご協力により見学会を実現することができました。Ei-WALKは、4つの見学コースがありますが、今回はそのうちの3つのコースを見学しました。

最初に、建築家 伊東豊雄氏設計によるコンセプトルームで施設の概要説明を受け、見学に出発しました。

「千住スマートエネルギーネットワーク」では、太陽光発電パネルや太陽熱集熱器の最新設備と天然ガスコージェネレーションからの電気と



屋上に設置されたPVパネル

廃熱とを組合せてエネルギー利用効率を最大化しています。また、隣接する荒川区立特別養護老人ホームと双方向で熱融通する実証試験も行われています。



暮・楽・創ハウス内部の様子

「暮・楽・創ハウス(くらそうハウス)」では、共働き子育て世帯と、セカンドライフを送る老夫婦世帯の二つの家庭を想定し、家庭用燃料電池「エネファーム」と太陽光や太陽熱の設備を組み合わせ、エネルギーの相互利用のあり方を提案しています。どちらの家も床暖房が入っており、とても柔らかな暖かさを提供していました。外には、エネファームで発電した電気を充電して走るプラグインハイブリッド車もありました。

最後に見学した「水素ステーション」では、都市ガスから製造される水素を燃料電池自動車に供給する水素ステーションの概要や、2015年に



水素で走る燃料電池自動車

向けた水素供給インフラの整備計画の説明を受け、その後、燃料電池自動車に試乗し、加速の良さや静粛性を体感しました。

対応していただいた東京ガスのスタッフの皆さんには、どの質問にもていねいにご対応いただき、厚く御礼申し上げます。

グリーン購入大賞を学ぶ ～エコプロダクツ展に行きました～

全国のグリーン購入ネットワークでは、環境に配慮した製品やサービスを環境負荷低減に努める事業者から優先的に購入する「グリーン購入」の普及・拡大への取り組みを表彰する制度を設け、毎年先駆的な取組を行っている企業や団体へ「グリーン購入大賞」を授与しています。グリーン購入の普及に関する先進事例を表彰し、一層の取り組みを奨励するとともに、先進事例の紹介を通じてグリーン購入の普及と質的向上を図ることを目的としています。今年は第15回グリーン購入大賞が決定し、12月13日国際展示場で開催された、日本最大の環境イベント「エコプロダクツ展2013」の会場(東京ビッグサイト・環境コミュニケーションステージ)において表彰式、会議棟にてセミナー「第15回グリーン購入大賞受賞事例発表会&ガイドラインの最新動向」が開催され、受賞者の事例発表が行われました。埼玉グリーン購入ネットワークでは、エコプロダクツ展の見学と合わせて、受賞者の事例を学ぶよい機会と捉え、グリーン購入への理解を深める「先進事例を学ぶ学習会」として参加者を募りました。セミナーでは100人の会場に入れなほどの参加者が集まり、熱心な発表や意見交換が行われグリーン購入への関心の高さが伺えました。エコプロダクツ展は、環境を軸とした経済発展や地球環境問題の解決に向け、企業や環境団体などの積極的な取り組みが紹介されるばかりでなく様々な催しも開かれ、当日は多くの見学者で賑わっていました。全国のグリーン購入



表彰式の様子

ネットワークもエコプロダクツ展に毎年出展しており、今回は一般社団法人産業環境管理協会等と同じブースで、カーボンフットプリントの商品紹介やグリーン購入への啓発を行いました。年に一回のイベントということもあり、関係者も交え多くの方が来訪しました。



GPNブース見学

ネットワークもエコプロダクツ展に毎年出展しており、今回は一般社団法人産業環境管理協会等と同じブースで、カーボンフットプリントの商品

紹介やグリーン購入への啓発を行いました。年に一回のイベントということもあり、関係者も交え多くの方が来訪しました。

- 【環境大臣賞】環境・復興支援シンジケートローン、
(株)日本政策投資銀行
- 【経済産業大臣賞】(株)デコス
- 【農林水産大臣賞】(株)開成
グリーン購入大賞
- 【大企業部門】株式会社滋賀銀行
- 【行政部門】葛巻町
- 【民間団体・学校部門】生活協同組合コープさっぽろ
優秀賞
- 【大企業部門】中越パルプ工業株式会社
- 【行政部門】生駒市
- 【民間団体・学校部門】地球環境関西フォーラム

企業見学会を開催

当団体は県内企業における地球環境への先駆的取り組みを学ぶため、1月31日に企業見学会を開催し、11名が参加しました。



高速発酵処理装置

初めに訪れたパレスホテル大宮では、地域循環型完全リサイクルシステム「エコパレス」を見学しました。これはホテルから出た生ごみを処理機で有機肥料化し、その肥料を地元指扇の契約農家で施肥してもらい、育てた野菜をホテルレストラン等でお客様に提供しているものです。食品リサイクル法の制定に先駆け、1997年に生ごみ処理方法の検討委員会を発足させ、1999年から生ごみ処理機を導入しました。生ごみ処理機で処理したものは埼玉県の認可を受け、「エコパレスさいたま」の名称で肥料として販売しています。

管理者である島根施設支配人のお話によると、ホテルから1日に出る食品廃棄物約350kgの内、塩分、油分の少ない生ごみ約270kgを処理機に投入すると、約55kgのエコパレスが出来るそうです。また、投入前の食品廃棄物に水分が多いと仕上がりも水気が多くなってしまいうため、分別や水切りの徹底にも力を入れているとのことでした。このシステムを導入したことにより、生ごみ処理費用を月額で約4万円減らすことに成功したそうです。

次の見学先である株式会社埼玉新聞社では、代表取締役社長の小川秀樹氏に環境への取り組みについてお話を聞いたあと、本社・印刷工場内をご案内いただき



埼玉新聞創刊号を説明する小川社長

ました。埼玉新聞社では社員全員がいつでもどこでも記事を書ける教育を行っており、これが会社の強みにもなっているそうです。また、印刷

工場では大量のロール紙や印刷ラインを見ることが出来ました。静電気による精密機器の不具合防止に加え、印刷ムラ等も抑えるために工場内は常時加湿されていました。輪転機は20年以上も保守をしながら大事に使用され、印刷工場の土台もコンクリートで頑丈に作ってあったため、東日本大震災の時も工場内は何の被害もなく、無事報道としての役割を果たすことが出来たそうです。

大宮アルディージャ

大宮アルディージャは、さいたま市をホームタウンとして活動するプロサッカークラブであり、2008年に「エコクラブ」を発足、「明日のために、今日できること。」をテーマに、現在の子どもたちはもちろん、これから先の未来の子どもたちのために、暮らしやすい地球環境を作ることを目指し、積極的にエコ活動に取り組んでいます。

2012年3月には、『ISO14001』の認証を取得しました。また、2012年度から「大宮アルディージャ環境目標イレブン」を制定し、スタジアム・オフィスでの電力使用料削減、リユースカップの導入やスタジアムのゴミの分別による3R(リデュース・リユース・リサイクル)運動の推進、グリーン電力の購入、自然エネルギーの活用(クラブハウス屋上での太陽光発電)、ペットボトルキャップの回収による東北地方被災地への植樹活動、ホームタウンクリーン大作戦(年間25回程度)やエコ教室の開催などに取り組んでいます。



ホームタウンクリーン大作戦

これからも、クラブ理念「スポーツを通じて夢と感動をわかち合える、より良い地域社会の実現に貢献します。」に基づき、ファン、サ

ポーター、地域の皆さまとともに、環境にやさしい活動を自ら実践し、また皆さまに働きかけることで、資源確保・地球環境保全に努め、暮らしやすい持続可能な地域社会を目指します。

埼玉GPN会員一覧

順不同

りそな総合研究所(株)、(株)ぶぎん地域経済研究所、(株)ハイディ日高、(株)テレビ埼玉ミュージック、大宮アルディージャ、浦和レッドダイヤモンズ、埼玉日産自動車(株)、柏木建設(株)、武州ガス(株)、(株)ヤオコー、(有)タカザワ企画、(有)パール、(株)関東パイプ技研、(株)小山本家酒造、埼玉トヨペット(株)、ポラス(株)、リコージャパン(株)関東営業本部埼玉支社、望月印刷(株)、(株)イーシティ埼玉、新日本有限責任監査法人さいたま事務所、(株)ピククルスコーポレーション、(株)FM NACK 5、(株)デサン、(株)タカヤマ、(株)アクセル、(株)ビージーサービス、武州産業(株)、(株)埼玉りそな銀行、(株)ビルテクノマイニチ、(株)松永建設、(医)誠昇会北本共済病院、(株)マツハ、税理士法人レッドサポート、(株)武蔵野銀行、(株)アルク設計事務所、埼玉県信用金庫、(株)八洲電業社、(株)エンライト、(株)ワーム、(株)ジャスト、東京ガス(株)埼玉支社、(株)ユーパーツ、溝口洋紙(株)、(株)エコ環境システム、(株)松柳園、(株)甲商、(株)ビルヒット、(株)東京化成製作所、アピカ(株)、ケミテックシー・エス・エス(株)、武正(株)、北海製罐(株)、コクヨマーケティング(株)埼玉支店、富士ゼロックス埼玉(株)、国際チャート(株)、三国コカ・コーラボトリング(株)、(株)ベルエール、(株)ハイクレ、フォーレスト(株)、サンケイ鋼器(株)、大成ロテック(株)、(株)ジャパンアート、(株)アートドットコム、(株)シール堂印刷埼玉事業所、(株)埼玉ディエスジャパン、(社福)埼玉福祉会、毎日興業(株)、(株)与野フードセンター、マルキュー(株)、(株)メガ・ネットワーク、(株)埼玉新聞社、(株)国太楼、(株)エヌ・ティ・ティ・クオリス、(株)太陽商工、(株)神谷製作所、モデリング(株)、(株)ヒメプラ、戸田市、埼玉県、さいたま市、日高市、川越市、川口市、生活協同組合コープみらい、(特非)EEハーモニ、埼玉県商工会連合会、(公財)さいたま市産業創造財団、(財)埼玉県産業振興公社、埼玉中小企業家同友会、さいたま商工会議所、埼玉県中小企業団体中央会、(公財)埼玉県公園緑地協会

■ 入会案内

団体会員、サポーター(個人会員)があります。申込書はHPからもダウンロードできます。ぜひ一緒にグリーン購入を。

■ 発行：埼玉グリーン購入ネットワーク

〒337-0053さいたま市見沼区大和田町2-1322-2大和田NPOプラザ内
TEL.048-749-1217/FAX.048-749-1218
E-mail saitamagpn@yahoo.co.jp
Home Page <http://www.saitamagpn.jp/>